

退任挨拶

宮司退任の御挨拶を申し上げ感謝の意を表する時期を失したことを深くお詫び申し上げます。

私は昭和二十五年春、高一の時信州の疎開先で父親に先立たれ急遽上京して奥沢神社にお世話になり修行の傍ら我が神社の奉仕に励む毎日でした。

昭和二十七年に故高橋泰造氏を始め氏子有志の方々御協力で旧社務所が落成を見たのを期に維持費の取り扱いは始まり、昭和三十一年四月には神社本庁より宮司拝命の資格を頂きました。昭和三十七年に高橋泰造氏を筆頭に心ある数多くの方々御浄財を賜り現幣拝殿の完成を期に崇敬会の設立を見たのです。

昭和五十八年には下神明の井上宮司様と相談し、荏原区史に史実として残る「正保年間（1644）」より、今から三百七十年前にはすでに上下二村に分立されていたとの史実を基に、十年ごとに奉祝大祭を両社それぞれの趣向によって斎行して参りました。

平成十年には松井清一名誉総代様の御熱意と実行力により御本殿の落成、幣拝殿の改築、手水舎の新設、参道の敷設、本殿廻り、大鳥居左右の玉垣の完成を見ました。更には平成十五年には高橋

友一名譽総代様の御熱意と氏子有志の方々のお力を頂きまして現社務所、各町神輿庫の完成を見ました。そして平成二十三年には拝殿屋根改修工事が草柳洋一総代会長様のもとで目出度く完了する事が出来ました。

この様に時代と共に、氏子の皆様を支えられて神の道一筋に御奉仕させて頂いて参りました。しかも今年の例大祭は、鎮座六百九十年、上下分村三百七十年、蛇窪大祭と銘打って近年まれなる内容の濃い大祭が斎行されました。これは宮司の努力は言うまでもありませんが草柳洋一総代会長様はじめ皆様の深い御理解と御協力にほかなりません。更には私の退任の道に花を添えていただきましたこと終生忘れることはできません。有難うございました。

退任にあたり、天祖神社の御神徳の発揚と皆様の弥栄を心から御祈念申し上げますと共に宮司に対し私に賜りました以上の御指導、御鞭撻を切にお願い申し上げます。 敬白

平成二十五年十一月二十三日

天祖神社 名譽宮司 齊藤篤信